いいでしょ、これ。日本にスノーピーク。

snow peak
outdoor lifestyle creator since1958

SDE-002/アメニティドーム S

取扱説明書

SDE-002

このたびは、スノーピーク製品をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。安全にご使用頂くためにも本取扱説明書を必ずお読みください。取扱説明書は大切に保管してください。

注意事項

フィールドでは予測不可能な事態が突発的に発生し、時にはプロダクツの性能を超えるような状況に直面する場合もあります。以下の説明がすべての危険な状況を説明している訳ではありません。プロダクツの性能をよく理解したうえで安全なキャンプをお楽しみください。

火気厳禁

□このテントの素材は難燃性ではありません。テント内では燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源や、マッチ、ローソク、ライター、タバコなど裸火や炎は絶対に使用しないでください。限られた空間での火気の使用は火災や酸欠、一酸化中毒などの恐れがあり大変危険です。

□テント内で燃料を保管したり、燃料を補給するなど、引火性のあるものを持ち込まないでください。

□高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。

天候・気象状況

□気象状況には常に細心の注意を払い、悪天候が予想されるときは速やかにキャンプを中止して安全な場所へ避難してください。万一悪天候にみまわれた場合や、風の強い時などはペグや張り綱がしっかりとつながれているかなどを点検してください。

□急な積雪によりフライシートの裾が覆われたり、低温下で氷結したときなど、極端に通気性が悪くなります。こまめに除雪したり入り口を開けるなどして常に換気をしてください。

設営・設営場所

□風の吹きぬけるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な出水などの恐れのない地盤のしっかりとした、水はけのよい平坦な場所を選んで設営してください。

□燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなど熱源のそばで組み立てたり、使用しないでください。万一熱源が転倒したり落下しても延焼しない距離を保ってください。

□たき火や花火などのそばで組みたてたり、使用しないでください。特に風下側では火の粉を履り、生地に穴をあけてしまう場合があります。

□樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営ください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを痛めます。

□テントの設営・撤収の際は、フレームをしっかりと掴んで作業してください。フレームの先端がハネ返るなどして思わぬ事故になりますので、近くに人がいないかなど、周囲の安全を確認してください。

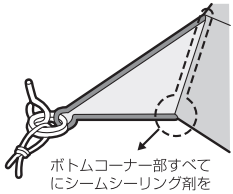
□ペグや張り綱でしっかりと固定してご使用ください。

初めてお使いになる前に

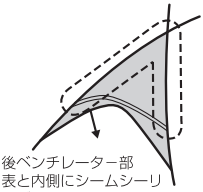
□品質には万全を期しておりますが、お使いになる前に必ず試し張りを行い、付属品や設営手順を確認してください。万一不具合があった場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

シームシーリング剤による目止めについて

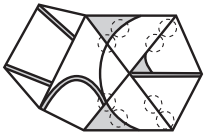
□縫製部分にはシームテープによる防水処理が施してありますが、フライシートのベンチレーター部やファスナー部分、ボトムシートの一部は、製造の都合上または構造上シームテープが施せない部分があります。通常の雨などは十分対応できますが、長時間の大雨や横なぐりの雨、地面に雨水が溜まっているような状態では、縫い目から雨水が侵入することがありますので必要に応じて縫い目にシームシーリング剤（目止め液）を塗布してください。シームシーリング剤は縫い目にそって表裏の両面からうすく塗布し、よく乾燥させてください。シームシーリング剤は時間とともに硬化してきます。剥離したときは塗布しなおしてください。また、当社ではシーリング作業サービスは行なっておりません。テントをより完璧な状態で使用するためにご協力をお願いいたします。



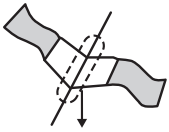
ボトムコーナー部すべてにシームシーリング剤を塗布してください。



後ベンチレーター部表と内側にシームシーリング剤を塗布してください。



フライシート表側
ずれ防止ベルクロテープ部
丸印8ケ所。



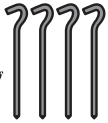
フライシート裏側
ずれ防止ベルクロテープ部の表と裏側にシームシーリング剤を塗布してください。

■セット内容

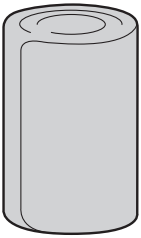
取説冊子×1

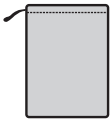
シームシーラー
×1

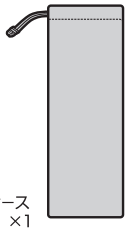
リペアパイプ
×1

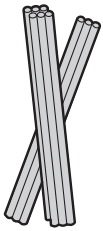

ジュラピングペグ
(17cm)×16本

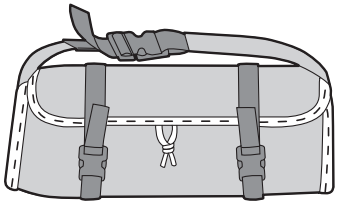
自在付ロープ
2.5m×2
二又用 1.9m×2
二又用 1.4m×2
0.7m×2


インナーテント×1
フライシート×1


ペグシート×1


フレームケース
×1


本体用フレーム(長)×3
前室用フレーム (短)×1(両端黄色)


収納ケース×1

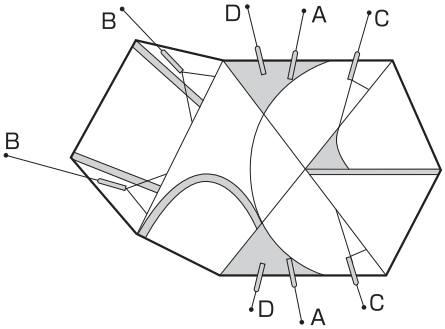
□セット内容は一般的な条件下での設営を基本としたものです。頑丈で長めのペグや、ロープなどを用意されると、柔軟な対応が可能となります。ペグやロープ、自在などは消耗品ですので、常に予備を携行することをお勧めします。

■部分名称

※前室メインドアをはね上げて使用する際は別途、ポール・ロープ、ペグをご用意ください。

推奨ポール TP-151(別売)

■フライシートへの張り綱取付け

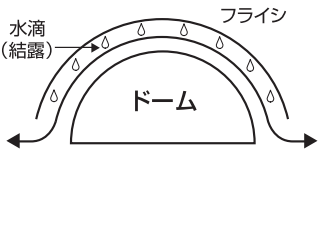


A. 2.5m×2
B. 二又用 1.9m×2
C. 二又用 1.4m×2
D. 0.7m×2

■テント天井部には小物を吊すループが付いています。1kg/1ケ所を超えない範囲でご使用ください。

■結露について

空気中に含まれている水分が急激に冷やされて霧状になったものが結露として現れます。特に狭いテント等の空間では、通常の室内よりも水蒸気の濃度が高くなり結露の発生する確率が高くなります。原因としては、人体構成要素の約60%を占める水分が、呼吸や汗などにより放出され、水蒸気となりテント内に結露が発生します。テント内では、特にフライシート・ボトム部分などの防水性能が高い部分に結露が発生しやすくなります。 結露は優れた透湿防水素材でも使用状況により完全に防ぐことは不可能です。ご使用中は結露軽減のために適時換気を行なってください。



設営の手順

※設営は必ず2人以上で行なってください。

1）テント本体を平らな場所に広げます。

※テント本体の出入口は2カ所あります。ビルディングテープのある側が前室となり、メインの出入口となります。あらかじめ風雨などの予測をし、前室の方向を決めておくことが要です。

※基本的に前室は風下に向けます。風上に向けると、風雨が侵入するばかりかドアを開け際に突然風が入り、本体を破損する場合があります。

2）3本の本体用フレームの内、いずれかの2本のフレームを伸ばし、 接続部分をしっかり連結します。

※フレームの連結部分にすき間ができないように、しっかりと差し込んでください。

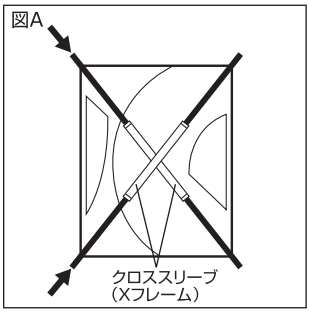
3）2本のフレームをセンターのクロススリーブに1本ずつ、ゆっくりと送り込みます。（以下Xフレーム）〔図A〕

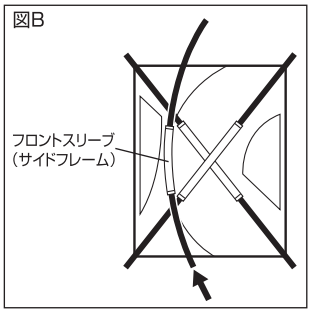
4）本体用のもう1本のフレーム（以後サイドフレーム）を伸ばし、接続部分をしっかりと連結します。

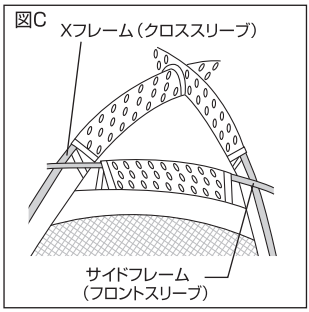
※フレームの連結部分にすき間ができないように、しっかりと差し込んでください。

5）サイドフレームをフロントスリーブにゆっくりと送り込みます。〔図B〕

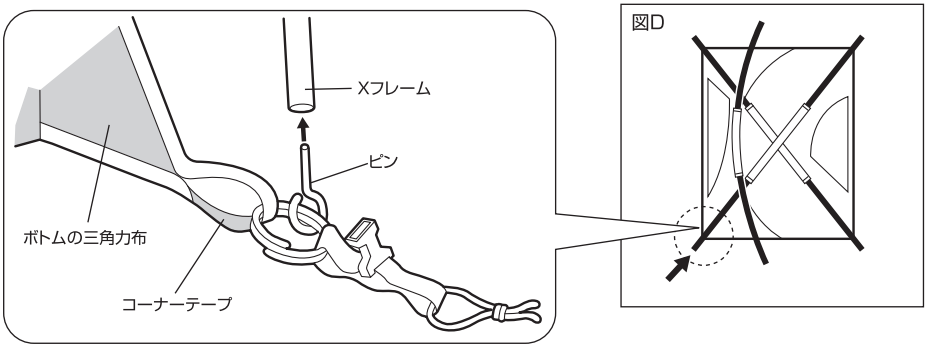
※サイドフレームはXフレームの上を通してください。〔図C〕





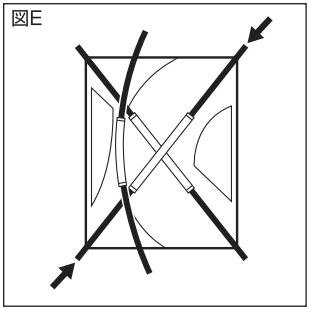


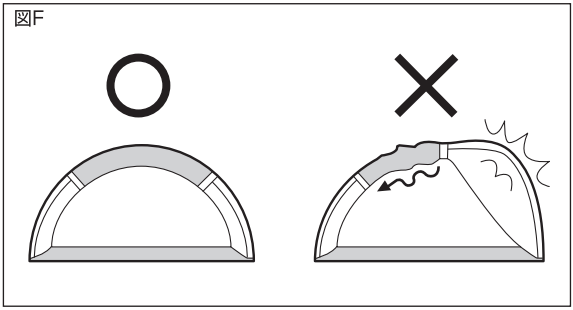
6）Xフレームの先端にピンを差し込みます。〔図D〕



7）差し込んだXフレームの反対側の先端にピンを差し込みます。〔図E〕

※スリーブの位置を注意しながら、ゆっくりとフレームの端部にピンを差し込んでください。
一方から強引に押し込むと反対側が大きく湾曲し、フレームの破損の原因になります。〔図F〕
反対側の人と声をかけ合いながら行なってください。





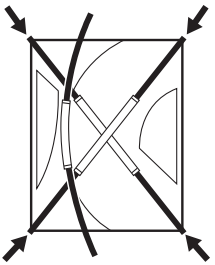
8）もう1本のXフレームも、同じ要領でピンを差し込み、テントを立ち上げます。〔図G〕

※ドアパネルやサイドパネルを半分位開けておくと空気が室内に入りうまく立ち上がります。

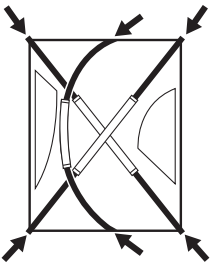
9）サイドフレーム両端をピンに差し込みます。〔図H〕

10）本体に付いているプラスチックフックを各々のフレームに引っ掛けます。〔図I〕

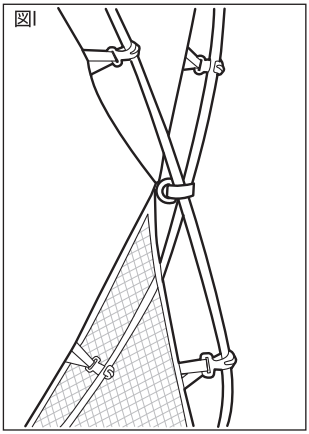
図G



図H



図I



11）前後のドアパネルのファスナーを全て閉めます。次に6カ所のコーナーテープ先端に付いているループにペグを通し、ボトムのたるみを取る様に番号順に軽く引き打ち込みます。〔図J〕

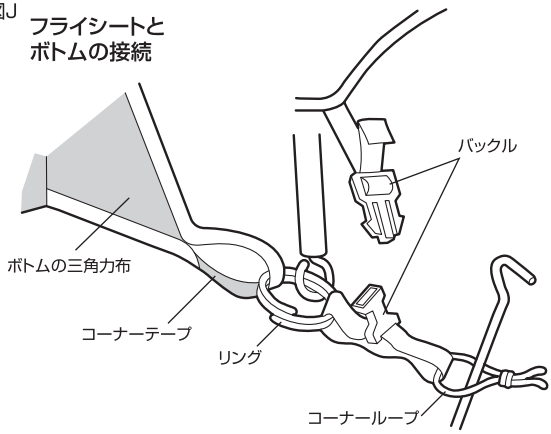
※ペグは最後まで打ち込んでください。

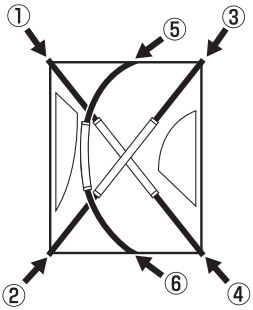
※ペグは無理に打ち込むと、曲がりや折れなどの破損につながります。少しずつ打ち込み、石などの障害物に当たった場合は場所を変えてから打ち込んでください。

※ファスナーを閉めずにペグダウンすると、ドアが閉められなくなることがあります。

図J

フライシートと
ボトムの接続



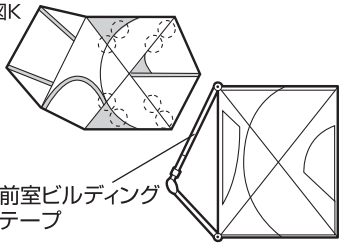


ボトムのたるみを取るように番号順に軽く引いてペグダウンする。

12）前室・後室の方向を確認し、フライシートを被せます。〔図K〕

※フライシートの内側についている、ずれ防止のベルクロテープ（フレームのクロス部とガイラインカ布部）をフレームに巻き付けて固定します。ただし、テント撤収の際は、外し忘れにご注意ください。ベルクロテープが、フレームについたままフライシートを強く引っ張ると、ベルクロテープ破損の原因になります。

図K

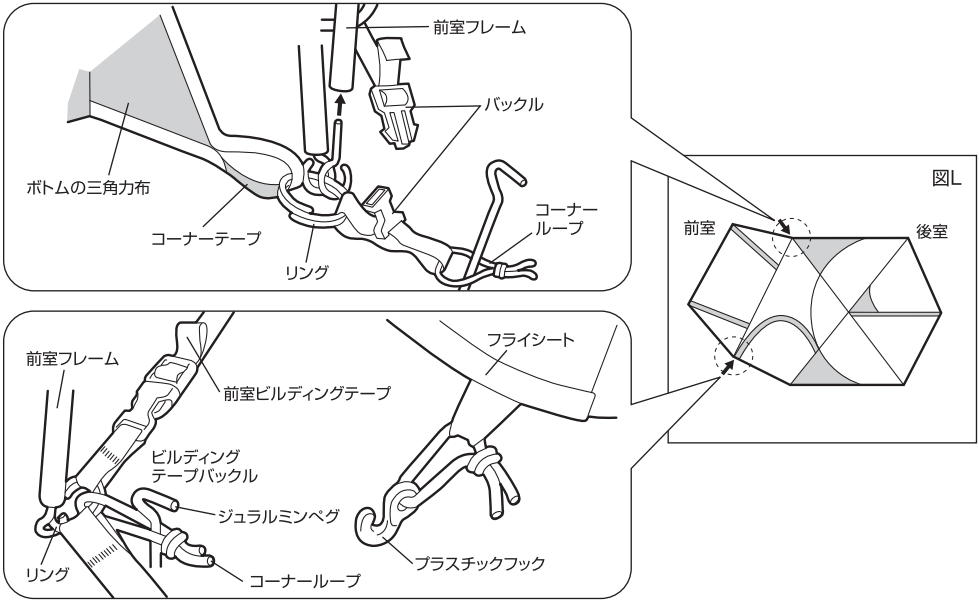


※前室ビルディングテープが接続されていることを確認してください。

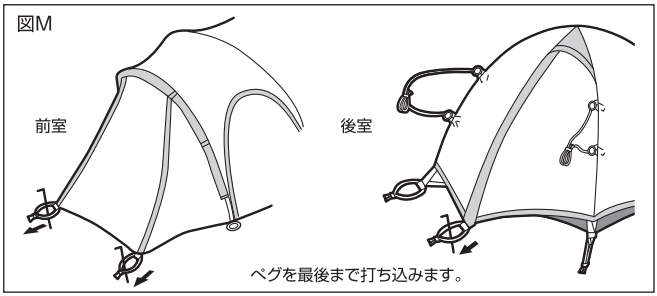
13）両端が黄色の前室フレームを伸ばし、接続部分をしっかりと連結します（1本）。

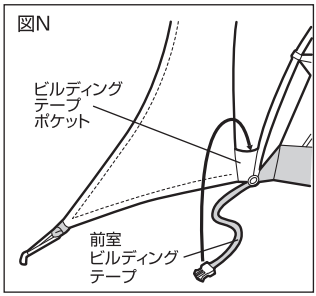
※フレームの連結部分にすき間があかないように、しっかりと差し込んでください。

14）フライシート前室の黄色のテープが付いているスリーブに前室フレームをゆっくりと送り込み、フレーム両端にピンを差し込みます。〔図L〕
15）フライシート裾の6個のバックルをボトム側のリングに付いているバックルに接続します。全てのバックルを接続した後フライシートの弛みをとる為にテープを引き、テンションをかけます。〔図J〕
※引きすぎにご注意ください。引きすぎますと、フライシートを破損する恐れがあります。



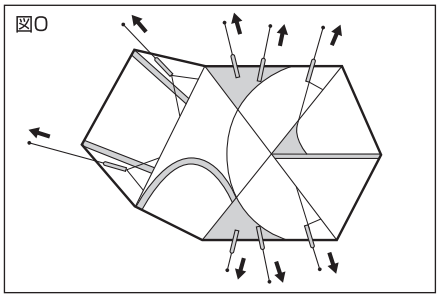
16）前室サイドドアコーナーのプラスチックフックをリングにかけます。〔図L〕
17）前室・後室の先端を引き、ゴムループにペグを通し、打ち込みます。〔図M〕
※引きすぎにご注意ください。引きすぎますと、ファスナーに負担がかかり破損する恐れがあります。
18）全てのコーナーをペグダウンした後、前室ビルディングテープのバックルを外しテープをまとめてテープポケットに収納します。〔図N〕





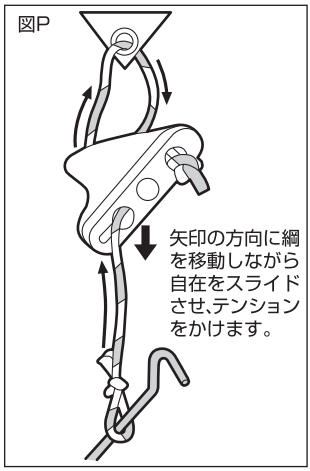
19）各張り綱を伸ばし、ペグを打ち込みます。〔図O〕
20）張り綱の自在を引き、テンションをかけます。〔図P〕

※ロープの引きすぎにご注意ください。引き過ぎますとフライシートに負担がかかり破損する恐れがあります。



21）前室メインドアパネルを張り出す場合は、別途ポール・ロープ・ペグをご用意ください。

注）降雨時のドアパネルは水が溜まりやすくなりますので、ポールを短く使い、前面中央を大きくV字にロープで下げ、水の逃げ道をつくってください。〔図Q〕

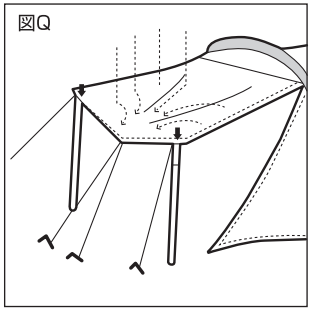


■収納時の注意事項

□撤収の際はまず前室ビルディングテープを接続して、作業を始めてください。〔図K〕

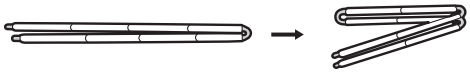
□フレームをピンから外す時はフレームがハネ返り危険です。フレームが真っすぐになるまで手を離さないでください。

□サイドフレーム、Xフレームをピンから外す際は、プラスチックフックをつけたまま外してください。（全てのフレームをピンから外した後、プラスチックフックを外してください。）



□スリーブからフレームを取り出す際は、必ず押して取り出してください。

※フレームを引いて取り出すと、スリーブの中で連結部が外れることがあります。外れた連結部で生地を痛めることがあります。

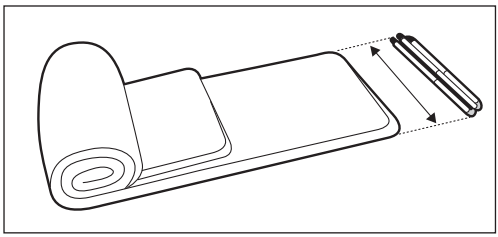


□フレームは中央から端に向かって折り畳んでください。端から折り畳むとショックコードに負担がかかり伸びや切断の原因になります。伸びが発生した場合、フレームを押さえる力がなくなり、フレーム折れの原因となります。ショックコードのテンションは定期的に点検してください。

■ケースへの収納

① キャリーバッグの長さに合わせ、本体、フライシートを折り畳みキャリーバッグの中に入れます。

② フレームやペグはそれぞれ付属の専用ケースに入れ、キャリーバッグに収納してください。むきだしの状態で収納すると本体生地やキャリーバッグを損傷することがあります。



永くお使い頂くために

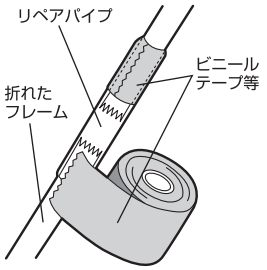
スノーピーク製品の優れた品質は正しい取り扱いとメンテナンスにより維持されるものです。プロダクツの機能を損なわないためにも、以下のポイントに留意してください。

応急処置

□不測の事態によりフレームや、本体生地が損傷する場合がありますので、リペア用品（ガムテープ、ビニールテープ、添え木になるようなパイプなど）を携行し、速やかに応急処置を施してください。損傷したまま放置すると、大がかりな修理が必要になったり、修理不能になる場合があります。損傷拡大を防止するためにも速やかにガムテープなどで両面から貼り合わせるか、撤収してください。

□本体生地が破れてしまったり、穴があいてしまったときは、傷が広がらない為にも、速やかにガムテープなどで両面から貼り合わせるか、撤収してください。

□フレームが折れたときは速やかにリペアパイプや添え木をあて、ビニールテープなどで固定するか、撤収してください。



撥水・防水性能について

□本製品はナイロンタフタ生地とポリエステルタフタ生地を組合わせて使用しています。いずれの生地にも高性能の撥水加工を施していますが、生地の特性上、撥水性能（撥水の仕方や、耐久性）に若干の差が見られる場合があります。ご了承ください。

□撥水加工は、ご使用を重ねますと撥水機能が低下します。撥水性が衰えてきたときは市販の撥水スプレーなどを使用してください。スプレーご使用の際は、スプレーの注意書きをよくお読みください。

□防水性の高い生地を使用しておりますが、地面の水溜まりなどと長時間接触していると雨水が浸み、部分的に色が変わることがあります。

紫外線の影響について

□本製品にはフライシートの生地にUVカット加工を施しています。UVカット加工は、人体にとって有害な紫外線の透過を抑えると共に、生地の強度劣化を緩和します。
※UVカット加工は、紫外線による人体への影響や、素材劣化を防止するものではありません。

□テント素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。

□紫外線の影響と思われる素材の劣化により、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。

メンテナンス・保管

□本製品にはナイロンタフタ生地とポリエステルタフタ生地を組み合わせて使用しています。生地の特性を考慮し、できる限り色移りし難い加工と配色パターンを採用していますが、保管状態などにより、若干の色移りが発生する場合があります。ご了承ください。また、濡れたままの保管は避けてください。

□濡れたまま保管すると、カビや異臭、生地の色うつり、生地の劣化などのトラブルの原因となりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで汚れを落としてから保管してください。

※フレームを通した状態のままで逆さまにしないでください。フレーム折損や生地損傷の原因になります。

□フレームは表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると腐食、強度が低下します。

ジョイント部分は常に清潔にし、少量のシリコン系潤滑剤を薄く塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。

またフレーム内部のショックコードは不必要に引っ張らないでください。

□高温多湿を避け、直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管してください。

□ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを使い常に清潔にしてください。また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系潤滑剤を定期的に塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。

□小さな生地の破損は市販のリペアテープで補修できます。補修の際はリペアテープの説明書を良くお読みください。

□ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。

□次回の使用に備え、ペグなどの付属品も含め、十分に保守、点検をしてください。

修理について

□本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

□修理を依頼される場合は、必ず十分に乾燥させ、汚れをきれいに落としてください。

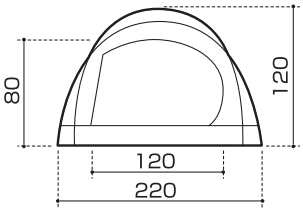
□修理品には修理箇所がはっきりと解るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。

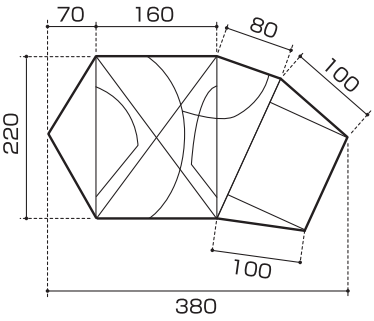
□修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。

1.保証対象の場合:往復運賃並びに修理費は、弊社にて負担いたします。

2.保証対象以外の場合:往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

アメニティドーム





<室内寸法>
単位cm

品質表示
SDE-002 アメニティドーム S

●材質
フライシート／70Dナイロンタフタ・75Dポリエステルタフタ・PUコーティング耐水圧1800mmミニマム・UVカット加工・テフロン加工（初期撥水100点、5回洗濯後90点）
インナーウォール／68Dポリエステルタフタ
ボトム／210Dポリエステルオックス・PUコーティング・耐水圧1800mmミニマム・テフロン加工（初期撥水100点、5回洗濯後90点）
フレーム／超々ジュラルミンA6061+A7001・φ9.3mm+8.5mm

●キャリーバックサイズ　55×22×18（H）cm

●平均重量　4.9kg
（フレーム、ペグ、ロープ含む）

品質保証について

スノーピークのプロダクツは、フィールドで確実に機能するためにフィールドテストからスペックが決定し、長期間にわたって使い込んでいただけるような品質管理がなされています。万一、明らかに製造上の欠陥による問題が生じたときは、無料で修理又は新品と交換させていただきます。また、以下のような破損につきましては保証できませんのでご了承ください。

1.不測の事故による製品の破損
2.誤った使い方や粗雑な扱いによる製品の破損
3.経年変化や紫外線の影響による素材の劣化
4.その他製造上の欠陥以外による製品の破損
5.改造品の破損

※ご不明な点やお気付きの点がございましたら、販売店又は弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

MADE IN CHINA

株式会社スノーピーク
address：〒955-8616 新潟県三条市三貫地958
phone：0256-38-1110　facsimile：0256-38-1015
URL：http://www.snowpeak.co.jp